

■杉浦譲 維新期の開明派官僚で、初代駅逓正として郵便制度の確立に貢献するも、早世した。
すぎうらゆずる
滑稽+人情本 1835 = 甲斐国で、甲府勤番同心(下級幕臣)杉浦七郎右衛門(号譲水)の嫡男として生まれた。
大塩平八郎乱 1837 = 2歳 :

天保改革終・1844 = 9歳 :
阿部正弘首座 1845 = 10歳 :
父ゆずりの勤勉・明晰な性格で学問に励み、

甲府徴典館に儒学を修め、

ペリー来航・1853 = 18歳 : 卒業試験に優秀な成績を示し、同館教授方手伝となり、
学頭田辺太一の殊遇を受け、一時甲府の町方加勤見習を勤めたが、
才能を認めた人達により、

桜田門外変・1860 = 25歳 :
遣欧使節・1861 = 26歳 : 前島密らとともに幕府の役職に登用されて、外国奉行支配書物御聞出役となり、
生麦事件・1862 = 27歳 :
8月18日政変 1863 = 28歳 : 池田長発(筑後守)一行の遣欧使節に田辺太一の配慮で随行、
禁門の変・1864 = 29歳 : 帰国、

大政奉還・1867 = 32歳 : 徳川昭武のバリ万国博覧会列席一行にも随行し、フランスの郵便制度を実地に見聞、日本の文明開化を期して「奉使日記」を認めている。
明治維新・1868 = 33歳 : 外国奉行支配に出世したところで維新を迎え、静岡へ移住、静岡学問所教授を勤めた。
初の日刊新聞 1870 = 35歳 : 徴命を受け、新政府に出仕、民部省改正掛となり、
廃藩置県・1871 = 36歳 : 郵便を創業させた直後に、初代駅逓正に昇格したが、同年の民部省の廃止に伴い大蔵省に出仕し、太政官権少内吏となる。
明治6年政変 1873 = 38歳 :

多くの業績を残すなか、

西南戦争・1877 = 42歳 : 地租改正の為の測量に奔走中に肺病で倒れ、没した。